

『数を読む』

西脇市立西脇病院
病院長 岩井 正 秀

朝から数を数えるのが日課の一つになった。電子カルテを開いて、その日の「病床稼働率」、「平均在院日数」、「空床数」などを計算する。一般病棟と地域包括ケア病棟は別物として計算するのでややこしい。さらにそれぞれの項目に関して、今月分の当日までの累計を出していくのが、またなかなか面倒である。そうして出来上がった表をコピーして毎日、朝一番に各科や各部署に配布している。

それらは日々変動する値であるため、リアルタイムに院内のすべてのスタッフに共有し意識してほしいと思っている。しかし、それは決して成果を見ているのではない。そんな数字などは、成果でも何でもないのだ。病院にとって本当に収めるべき成果は、もっと暖かく、輝かしく、そして心に迫るものであるはずだ。数値は、その成果を上げていくための、一情報にすぎない。

しかしながら、だからといって、その数値をおろそかにしてもよいわけではない。それらは病院の現状を示す一つの座標であり、全職員が同時に認識して、それを手がかりに次にはどうすべきかを考えていかななくてはならないからだ。そうすることによって、この病院という組織が、様々な医療情勢に対してより敏速に対応していくことが可能になるだろう。それ無くしては如何なる成果も期待することはできない。特に当院のような地域の中規模病院にとっては、それは常に念頭に置いておくべきことである。

もうすでに一年以上にわたって、毎朝この作業を続けている。わざわざ病院長がする仕事ではないでしょう、とよく言われる。いやいや病院長がするのもいいものですよ、と答える。その作業によって、毎日何人が入院し、ベッドがどれだけ使われているか、また昨夜の救急には何科のどんな患者さんが訪れているのか、そういったことをかなり正確に具体的に把握することができるからだ。これは電子カルテの利点の一つでもある。そして数字の裏にあるものを、さらには数値の変動が指し示しているものを読み取っていくことが、何よりも病院機能を維持するために必要だと考えるのである。

現代は至る所に、情報が氾濫し数値があふれている。しかし当院を訪れた人達が、そういった数値よりも、職員が努力して達成した『成果』を少しでも感じ取っていただければ、何よりもうれしく思うのである。